

# 弓道いばらき

平成6年6月第18号

発行所 猿島郡三和町  
諸川1401-1  
茨城県弓道連盟  
電話 (0280-76-0939)

## 弓道人口の拡大と 指導者の充実を

会長 関 宗長



弓友の皆様、お元気ですか。

国の内外の政治、経済ともに激変の平成五年をおくり、その余震の納まらない中で、平成六年を迎え、私は、会長に再選をいただき、責任の重大さを痛感しております。まず以って、弓友会員各位の相変わらぬご指導、ご協力をお願い申し上げます。

さて、弓界は、平成五年度には、審査料、登録料の値上げになり、一昨年の会費の値上げに引き続いでのごで若干の心配もありましたが、会員登録、受験者数ともに、いささかの変動もなく、お蔭様で、会の財政が大幅に好転し、今後の活動の強化に明るい見通しをもつことができました。

また、平成五年度は、執行部各位の非常なお骨折りと会員各位のご精進により、よい成績をおげ得ました。

審査合格者も、七段二、六段二、教士二、練士五で十余名の高段者が生まれました。また、全国レベルの大会でも、東日本女子で村越五段の優勝、全日本選手権で張替教士の三位、国体成年女子近の八位入賞、その他、たいへんよい成績を上げました。

一方、不幸なこともありましたが、永年弓界でご活躍をいただいた篠塚教士、平塚教士、郡司練士、田口練士など、ご世界になられた。生前のご功績をたたえ、謹んでご冥福を祈ります。

さて、平成六年度は、基本方針として

- 一、会員の技術力の向上、及び指導者の育成のため、講習会、研修会の充実。
- 二、各地区、各支部、県弓道連関係団体及び主要大会への支援、助成
- 三、学校弓道、少年弓道の振興充実
- 四、審査員の技能、識見の向上
- 五、県内外の競技力の向上と選手選考の周知
- 六、執行体制、事務局の充実

など、特に本県弓道人口の拡大と指導者の充実に重点をおきたいと存じます。

また、役員改選により、副会長に矢吹純士、山口範士にご留任いただき、新たに、木村喜久雄(前理事長)、柴田猛(教八)、米家達朗(石岡高校長)が就任されました。木村副会長は、前に理事長として、専門部制による現執行体制整備に大きな実績をおげられており、柴田副会長は、先年の天皇杯受賞が示すように、本県弓界のチャンピオンであります。関根理事長、宮崎・竹下両副理事長は、留任され、各地区選出の理事等に若干の改選がありましたが、ご退任の方々の多くは、ご都合で

辞任のご意志のあった方々ですが、今日までのご骨折に感謝申し上げますとともに今後ともいっそうのご指導を下さるようお願いいたします。

終わりに、会員各位のいっそうのご活躍をご祈念いたします。

## 的中偏重を避け 精神修養道を

副会長 矢吹 三郎



このたび、引続いて茨弓連副会長にご推挙いただいて、大変光栄に存じております。頑健であることが唯一の取柄で、サッパリ茨弓連のお役に立っておりませんが、昨年中、嘗ての同輩であつた篠塚・平塚両先生の他界を、独り悲嘆すべきものでないと、意を決してなご余世をフル回転し、微力ながら持てる力を揮う心算しております。

近來、全弓連の依命出向が多くなり、全国他県連の企画・運営動向を見聞する機会もありますので、これ等を充分活用し、茨弓連の発展に反映できればと願うところであります。逐年、関会長の情熱溢れる指導と、卓越せる識見によって、茨弓連は安定した発展の途にあります。敢て不肖の身を以て補佐助言するものもありませんが、なお将来に向けて、一層のお引廻しを願えば幸甚に存じます。併せて会員諸賢のご指導ご鞭撻を衷心よりお願い

申し上げます。

## 県弓道の発展を

副会長 山口 省吾



花爛漫の櫻花も一夜の風雨に散り、日増しに暖かくなって来ました。先般の代議員会にて凶らずも副会長に推挙されまして、身に余る光栄と感謝に堪えませんが共に責務を痛感する次第であります。

私去年十月より入院治療いたしてお

申し上げる次第であります。

折角の機会ですので紙面をお借りして、会員諸賢にお伝えいたします。学校弓道の正科認定・諸外国への日本弓道普及・弓道教室等による底辺拡大・生涯体育としての良さ等々から、全弓連は日本の文化的遺産としての日本弓道を見直ししようと、種々考究中であります。従って、的中偏重を避け、精神修養道としての弓、伝承された貴重な日本の文化遺産を正しく後世にも引き継いでゆく、この観念を忘れず、ご精進なさることを特にお奨めいたします。

り老体の為完全回復の兆候が急には見  
えませんので役員改選前より辞任の意  
向を申し入れておきました次第でした  
が関会長始め矢吹、田原両先生、会員  
の皆様からのお情けと推薦で副会長の  
席をお与え下さったことは、私身に余  
る光栄で感激いたしておる次第で、一  
日も早く快復いたし微力ながら弓連の  
為に尽力する考えであります。長らく  
加療しておりますので病状もよい方へ  
向かっておりますからご安心下さい。  
入院中はご心配をかけ、教練士会、皆  
様からお見舞い並びにご激励のお便り  
いただき誠に有難く恐縮している次第  
であります。この紙上をお借りしてお  
礼申し上げます。

今年も臨時中央審査があるので何か  
とご多忙のこと存じます。会員皆様  
のご健康をお祈り申し上げますと共に茨  
弓連の益々のご発展をご祈念いたしま  
す。



副会長 米家 達朗

**卒業しても  
引き続ける生徒を**

昨年、高体連専門部の部長として、  
県弓道連盟の副会長に就任して一年が  
し上げます。

終ちました。この一年は、今年茨城で  
開催される関東高校大会のために費や  
したと言つて良いでしょう。昨年の大  
会視察には、十四名の派遣ができた  
が、前回の茨城開催なども思い出しな  
がら、実行委員会を重ねて準備に余念  
がありません。この二年間は、県内大  
会の役割分担も変えずに慣れるように  
してもらいました。各係ごとのマニユ  
アルも何度も検討して、五月のリハー  
サル大会に向けて作成しています。疑  
問をそのままにせず、その場で話し合  
つて、より良いものを作ろうとしていま  
す。県弓連の先生方には、物心両面に  
わたるご援助をいただき感謝しており  
ます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、  
よろしくお願いいたします。

**新任のご挨拶**

**当連盟の  
活発な動きを**



副会長 木村 喜久雄

皆様方の弓道振興発展に対するご活  
躍に心より敬意を表すると共に感謝申  
し上げます。

さて、高体連専門部も加盟校は七十  
三校を数え、生徒数は二千名を越えま  
した。喜ぶべきことである反面、抱え  
ている問題も多様化してきました。弓  
道の経験の少ない顧問も増えています。  
これを機会に本格的に取り組み、県弓  
連に入会することを勧めています。  
今年、夏の高校生対象の講習会に  
県弓連の先生方を講師にお迎えして、  
段級審査についての顧問、生徒の要望  
に応えるべく計画しています。弓道場  
がなかったり、狭くて十分な体配の練  
習ができない学校も多くあります。よ  
ろしくご指導下さい。

私が当連盟の理事長を務めていた数  
年前の会員数は約九〇〇名でしたが、  
今では約千二百名と右上がりの傾向に  
あることは誠に喜ばしく存じます。  
当連盟の今ある活性は、それぞれの  
地区で自己の研鑽の傍ら後進者育成に  
精進してきた皆様方の努力と、執行機  
関とのコミュニケーションが次第に高  
まってきたことの証であります。  
さて、四月三日の代議員総会におい  
て、弓下手の小生が副会長にご推挙を  
頂き、我が身の程も省みずお引受けす  
ることにしました。しかし、実力尊重



副会長 柴田 猛

**正射正中ということ**

今年度から副会長という大役を仰せ

私は副会長就任に当たり、皆様方  
のご認知よろしくをお願い申し上げ、今  
ある「当連盟の活発な動き」が更に継  
続することを願つてご挨拶といたしま  
す。

の斯界にあって舵取り補佐が務まるで  
あるうかと少しく不安を覚えるところ  
ではあります。組織の活性化を考え  
る原則論の一つの「ザルドジョウ論」  
を想い出し、勇気をふるつて甘受した  
次第であります。  
「ザルドジョウ」とはザルに入れた  
ドジョウの動態を説き、組織づくり  
に教訓を与えるものであります。即ちザ  
ルの中に入れられた大小さまざまなド  
ジョウは暫らくは大小入り交じつて活  
発な動きを呈しているが、やや時間が  
たつと動きがなくなってくる。それは  
形の大きなものは下に、小さいものは  
上にと区分されてくるからであります。  
やがて大きい方は力んでも上に昇れず  
ザルの中のドジョウは動きを忘れて死  
んでいくという話であります。

つきまりました。会長を補佐し、本県弓  
連発展に微力ながら尽くす所存でござ  
いますのでよろしくお願いいたします。  
正射必中、これは正しく射すれば必  
ず当たると一般に解されています。  
しかし、昭和29年の弓道誌に「射技  
を語る」と題して、千葉、高木、神永  
浦上各範士先生方の対談が載っていま  
した。一部抜粋しますと「浦上：正射  
正中でなければいけないと思う。矢が  
的に中れば多少無理があつても正射必  
中といえるが、それではいけない……。  
私が正中というのは的の真中に中ると  
いうのではなく、矢が付いているとこ  
ろに中ることをいうのです。」とあり  
ました。必中は矢の付けは的になくても  
も当たることであり、正中は矢の付い  
たところに当たるといふことになりま  
す。  
最近大会等で見えますと、必中の  
射が目立つようです。原因は基本が身  
についていないからではないでしょう  
か。正中のためには、基本を今一度見  
直し、射法、射技の基本に則り正射す  
ることが大切です。また視点を變えて、  
的に矢を付けた行射をすることで、正  
中を体得し、正射ができるのでは、と  
も思います。指導者は心しなければと  
稽古している昨今です。







足りているのか。」と言う自責の念はありながらも、今までの私に対する諸先生方の御恩に報いるには、やはり未熟ながらも私なりに自己の研修と同

### 全日本選手権に

石岡支部 石川 亜耶子



時に後輩の方々の修練に対し出来るだけの指導と援助をすることしかないので、と考え始めているこの頃です。

吸を乱してはならない。それがはじめて出場して、大前で引く自分の役目。ひたすら自分を落しつけ、励まし、ただだ一生懸命に、と思う他なかった。控室でじっとしていると、だんだん心細くなってくる。目をつむると何か

全日本選手権に選抜されて数日、私はやたらドキドキして、落ちつかない口をすこした。自分の欠点ばかりがワァーと体中を駆けめぐる。一矢一矢に全身全霊を打ち込んで、一射絶命の弓なんて、そんなかっこいいことはもちろん夢だ。どうやって、あの重庄の中で自分の弓がひけるといふのだ。多分緊張して緊張して、どこかでブツンと何か

大前としての体配を絶対にまちがえてはならない。後ににつづく先生方の呼ばれ、初めて汗を感じる。腹がへっては何とやらで、先生方は

てはこの仲間入りは出来ないのだ、と黙って食べた。残さずに食べた。次の朝、大事な日なのに、緊張も手伝ってひどい下痢になってしまったのである。この大会に出場して、すばらしい出会いと、たくさんのお話を学ばせていただきました。あがっても、自分の信ずる弓を引きたい、自分を見失わな

昇段、昇格始めてと

- 七段 田村澄寿 (水戸)
- 七段 松山芳雄 (東海村)
- 七段 榎山博正 (原発)
- 七段 塩津多恵子 (水戸)
- 七段 高橋輝子 (三和)
- 七段 細川久子 (友部)
- 七段 松尾牧則 (鹿島)

### ☆お知らせ

◎次の方が(財)日本体育協会公認コーチ有資格者に認定登録された。(詳細は弓道四月号)

- 柴田 猛
- 天 牙子
- 張替謙一

### 支部紹介

### 慈弓会の歩み

日立支部 増田 英一

慈弓会の誕生は、昭和十四年、有志間にわたるご教示に感激。帰宅後、町内三段A氏に教授を依頼、A氏の所



然し、二十一年連合軍の進駐に伴ない一時断念する。二十三年には連合軍の強い圧制もゆるみ、柔剣弓道がスポーツとして認められる。その後、同志数名で町内共同墓地の片隅に道場を建てたが、四十二年幼稚園設置のため立ち退き、解体。その後寛大な現会長五来清氏の献身的な尽力と配慮により、屋敷内に立派な道場が設置された。会員も二十



余名に急増し、四十九年には創立三十五周年記念射会を開催した。時あたかも恩師中野先生には、範士九段全弓連会長の要職に就かれて、弓道界発展と充実にご尽力された実績は、茨弓連の誇りであり、本会にとっても先生のご恩を忘れることはできない。平成四年三月には、創立五十周年記念射会式典を盛大に開催し、五来会長の情熱と功績を讃え、会員一同から感謝と祝意を表す。道場の一角には「昭和四十四年秋・慈弓会設立記念」と記された矢立が、本会の歴史を物語っている。

現在の状況を紹介しますと、会員数五十七名(称号四名、五段以下の有段三十五名)、八十六才を筆頭に幅広い年齢層と多彩な職種による構成である。運営は自主的な企画・管理に当たり、道場は年間を通じ、気軽に何時でも稽古できるよう開放された心遣いは、まさに会長の仁徳の現われであり、本会の大きな特色である。主な内容は、月例射会、五十射会、会長杯射会、新年射会、納射会、土用稽古、寒稽古、さらに近接支部との交流練習会等々、毎回多くの会員が積極的に参加し、また県弓連等による講習会等にも進んで参加し、修練に努めている。今後の課題の一つに、外部講師を招聘する研修会等も企画している。

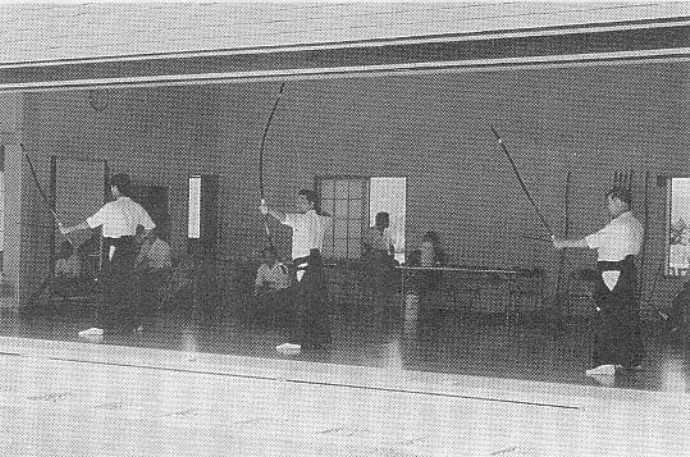
一昨年九月には、会長はじめ弓道関係者の熱意と市当局の深い理解によって、長年の懸案であった市営弓道場

(三人立)が新築され、それを機に、市民の弓道への関心が高まり、市公民館と本会が主催し、初心者対象の弓道教室を開講、本年三月末で三年次を終了し、三十名近い受講生は脱落者もなく、引き続き練習に励んでいる姿は喜ばしい限りである。

私達会員一同の修練のモットーは、会員相互の親睦を深めつつ、常に弓道の要諦である至誠と礼節を重んじ、広い視野に立って、心身一如の弓道を通して、「射即人生」の高い境地を目指し、真の弓道を追求していきたいと念じている。

### 楽しい支部活動をめざして

八郷支部 桜井正男



八郷町は筑波山の東に位置する人口約三万の純農村地帯です。この町に総合運動公園の最後の施設として、整地工事も含めて総工費約四千万円をかけた県内でも屈指の弓道場が出来上がったのは二年前の平成四年の春でした。夜間照明、更衣室、師範室もある六人立の道場が出来た時には、町の弓道部員は十名足らずでした。

町の道場が出来たままでは、個人の小さな道場で練習をしたり、町や郡の大会等は地元の八郷高校の道場を利用

八郷町は筑波山の東に位置する人口約三万の純農村地帯です。この町に総合運動公園の最後の施設として、整地工事も含めて総工費約四千万円をかけた県内でも屈指の弓道場が出来上がったのは二年前の平成四年の春でした。夜間照明、更衣室、師範室もある六人立の道場が出来た時には、町の弓道部員は十名足らずでした。町の道場が出来たままでは、個人の小さな道場で練習をしたり、町や郡の大会等は地元の八郷高校の道場を利用

させてもらう不自由な思いをしてまいりました。そのせいか部員の数も少なく高段位者がいないのも現状です。あれから二年が過ぎ弓道教室を実施したり、経験者を誘ったりで現在では部員数三十名、県登録十六名となり、支部として認めてもらえる人数になってきたと思います。

稽古日は運動公園が月曜日休園というので、その他はいつでも利用できますが、部の練習日は、火木土の夜十時までとなっております。指導には現在町でただ一人五段の足立さんが中心となりその他はお互いに指摘、注意し合い和気あいあいの中で行われています。又、月の内に大きな大会等が予定されています。月内にかぎり、楽しみと練習の成果を見る為に月例射会を実施しています。内容は射詰、鏡射、点數鏡射、風仙、金的と余興的なものも入れ、賞品も一人一個までとし多くの人が楽しむよう

### 正弓会のあゆみ

取手支部 小堀正明

取手における弓道の歴史は古く昭和四年にさかのぼる。当時の取手駅長が町の有志を募って始めたのであったが、昭和十七年眼科医飯塚左右二先生(現在教士七段)がその邸内に三人立ちの道場を造られ大内義一範士を師範に迎えて「正弓会」として本格的な弓道の

練習が行われるようになった。しかし敗戦による武道の廃止・日本弓道連盟の発足・取手市体育協会の設立などの諸問題もあって部員の増減消長などによる栄枯盛衰を繰り返してきた。部員一同の強い運動によって市営体育館の建設に際し、その三階に開口十

に心掛けています。以前とは異なり道場が出来てからは練習量も増え的中率も高くなり成績も良くなってきました。昨年度は、中野杯優勝、支部対抗三位、麻生町大会優勝、銚田町大会優勝、その他地方大会に上位入賞と手前味噌ではありますが、八郷旋風をおこした一年でありました。又昇段試験も四段一人、三段三人、一級一人が合格することができ、段位獲得にも意欲が出てきたのも事実のようです。しかし外見ばかりに気を取られ、弓道に対しての真のきびしさを追求することに少し欠けているように思っています。

今後は小さな支部、若い支部ではありますが、県連の講習会等も含めて、先生方のご指導を仰ぎながら真の道を求めると同時に、楽しい支部活動ができるように努力をして行きたい。



五名になっている。

飯塚道場では殆ど毎日一、二名が、また市営道場では土曜日と日曜日に必ず十名前後の人が練習に励んでおり、毎月の定例射会には毎回三十名近くが参加し、明間・浦教士の指導のもと熱心な稽古が続いている。昨年は数名が昇段、四年度の受講者はほぼ全員が初段に合格し、大島加代子四段は女子部での優勝をもたらした。本年も横田・

計画している。

我が弓道部は茨弓連取手支部であり取手市体育協会弓道部でありまた正弓会であるが、市の補助金八万円と部員の会費約二十万円が経常の運営費に当

### 弓道普及のための四半的

竜ヶ崎支部 久松 正 己

てられている。

元部長木下氏が逝去されてはやくも七年になる。未亡人の歌一つ亡き夫の弓二張を吾が部屋に置いて朝夕心しずまる

的に立ちたい意欲の出た人から夜でも道場に誘い出す。又状況の許す人では河川敷等安全な広場での的前も考えられる。この様に漸次進めて行く他次に考えたのが四半的の演武会である。

耳馴れない言葉だが、この弓は本格的な弓道とは若干異なるが市民に広く弓に触れて貰うには良い方法と考えられている。老年層や子供にも試みることができる点が良い。

四半的とは、九州の某地で行われていると伝聞する弓道で、滋賀県での「ねんりんびっく」の際に見学してきた。

五米奥行七米の射場に審査員席・師範控室・男女更衣室及び手洗を備えた立派な道場が平成二年に完成し、飯塚先生邸内のと合わせて二つの道場を持つことになってから、我が弓道部は急速に発展の道をたどりはじめた。平成四年に開いた弓道教室では七十余名の希望者があり抽選によってやっと二十人にしぼって開催したのであった。続いて昨年開催の弓道教室もほぼ同じ状況で両回とも参加者の約四割が定着し、当地が東京に近い為東京の地連に属しておられる人を含めて現在部員は四十

深山・丸山五段の躍進や数名の昇段と五年度受講者の初段合格とが期待される。昨年六月には飯塚先生の傘寿祝賀射会が射手浦・第一介添丸山・第一介添大島での矢渡し、藤代の久保田・土浦の清水両教士による一つの射礼に続いて部員一同の一手礼射と盛大に行われた。その間先生は奥様とともに熱心にご覧になり、午後の祝宴にもご老体をおしてご出席頂いたのであった。今年は奇数月第三日曜日に県南地区合同練習会を市営道場で行うことも

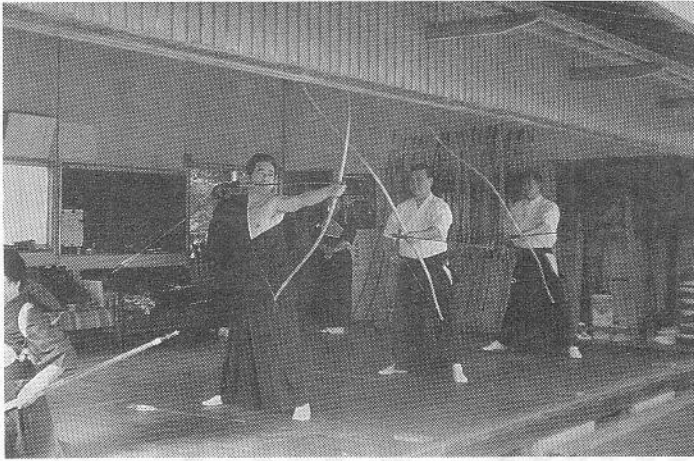
の弓引きが圧倒的に増えているのではなからうか夜間のみ開放された道場には、たとえ希望者は居ても呼び込むことが絶望に等しい。

夜の七時から九時迄遠慮がちに稽古を重ねている現状を打破しようとして市立中学校に向いにお願したが、校長先生曰く、「生徒の休日でも日中開放となれば責任の先生を休日出勤させねばならず、この手当を誰が負担してくれるか？」と云う難題にぶち当たっ

まず初心者には昔から巻きわら三年の教えもあることから、よし道場だけでなく、十分に興味の繁げる又或る程度迄は技術の上達できる様にと、各自の宅地内での巻藁稽古を教えて行きたい。古畳半分を懸し、安全を確保しながら一定の水準までこれで指導を続ける。







### 真の弓道の追求を

たのを、会員の羽生さんの経営する幼稚園で取入れ、幼児の躰教育に成果を挙げているものである。  
現在は稍々下火になりつつあるとい

石岡支部 須田 勝

石岡弓道会は、芹沢会長のもと現在六〇名の会員を有する会に育ちました。振り返ってみますと、昭和三十六年と記憶して居りますが、故岡崎先生、

感謝の気持ちで一杯です。

芹沢会長の発案で初心者弓道教室を石岡市体協と共催で開催し、今年十五回を終了し、地道に会員が増え参りました。道場も芹沢道場・須田道場と二ヶ所を活用し現在練士六名、五段十名、四段六名等、年令も七〇才代から二十才と巾広く、良いムードで練習にはげんで居ります。

権大会女子の部決勝進出し入賞した石川亜耶子、中野杯女子の部二位吉田正子、庄巻は県女子新年射会で、射詰優勝石川亜耶子、競射優勝小室セイ子、二位石川亜耶子、三位長谷川節子、四位黒沢恵子と石岡勢で占める等着実に力をつけ、会員の切磋琢磨と旺盛な気力で稽古にはげんでる事は楽しみである。

安土の積み替は皆で一日で積み上げ、道場の管理等も何時の間にか出来る。

てるのは、皆の道場に対する愛着とうれしく思っ居ります。石岡地区の講習会も、年二回、県連の講習会も多数で出席し、着実に身に付けつつあり期待して居ります。最後に会員相互の信頼と、目的をもった稽古を重ねながら、きびしい中にも、暖かみのある家庭的な雰囲気等、良い環境の中、真の弓道の追求する事で互いに頑張ろう。

## 茨城県弓道史年表(4)

### 広報 小野崎 紀男

- 昭和27年
  - 8月3日 第十回日立多賀弓道振興会
  - 8月5日 第五回県都市対抗弓道大会
  - 8月10日 県下都市体育大会
  - 8月12〜16日 第三回弓道夏季大学
  - 8月16日 県弓連審査
  - 8月17日 都九県連合弓道審査
  - 8月24日 笠間稲荷弓道会八月例会
  - 8月31日 勝田市遠の大会
  - 9月6日 中村孝次没す
  - 9月6〜7日 第六回県民体育大会兼第七回団体県予選
  - 9月21日 石川幾之介翁追悼射会
  - 10月4日 水戸八幡宮流鏑馬
  - 10月12日 第五回県連弓道大会兼国民体育大会選手壮行射会
- 昭和28年
  - 11月3日 笠間稲荷やぶさめ神社第三回笠間菊まつり弓道大会
  - 11月23日 第三回県勤労者弓道大会
  - 11月30日 第三回常磐弓道大会
  - 12月14日 県弓連審査
  - 1月16日 笠間稲荷弓道会初射会
  - 1月18日 茨弓連理事會
  - 2月2日 第二回日立多賀弓道振興会
  - 2月22日 県下四ブロック対抗弓道大会
  - 3月13日 櫻村松兵衛氏追悼射会
  - 3月15日 笠間弓道会三月例会
  - 3月21日 第四回県弓連春季大会
  - 4月1日 茨城大学弓道部発足
- 4月5日 日立工場体育会弓道場落成祝賀射会
- 4月11日 県弓道会新治支部お花見射会
- 4月27日 県弓連審査
- 4月29日 鹿島神宮弓道大会
- 4月29日 第五回東日本実業団弓道選手権大会(於多賀)
- 5月3日 大和村弓友会矢場開き
- 5月12日 第三回常磐神社奉納的会
- 5月17日 全日本勤労者弓道大会(東京)にて口製チーム優勝
- 5月25日 県立内原病院創立三周年記念弓道大会
- 5月30日 鹿島神宮お田植祭やぶさめ
- 5月31日 第三回日立多賀弓道振興会
- 7月12日 磯原炭坑弓道場増改築記念優勝杯争奪射会
- 7月27日 「久慈郡体育大会要項」決まる
- 8月2日 第六回茨城県下市対抗弓道大会(四市)
- 8月9日 那珂湊体育協会弓道大会
- 8月11〜15日 第四回弓道夏季大学
- 8月15〜16日 久慈郡体育大会

### お願い

御所蔵の弓道資料(写真、賞状など)をおかして下さい。コピーでもよろしいです。

### 地方大会だより

#### 土浦桜まつり弓道大会

土浦 澤田 恒弥  
恒例の土浦桜まつり協賛弓道大会が平成六年四月十日、土浦市立武道館弓道場で三百十名の参加を得て開催された。

矢渡しは、射手田原トシ範士八段に中村太錬士五段、助川末広五段が介添した。

各目六射の結果は次のとおり。  
中学生の部優勝 大久保由美

高校生の部(女子) 優勝 柳瀬真由美

二位 館 恵子

三位 中野 美幸

高校生の部(男子) 優勝 外山 健一

二位 渡辺 貴宏

三位 塚本 一也

一般の部 優勝 国谷保五郎

二位 久保田 清

三位 石井 幸子

#### 東海村村松山弓道大会

東海 木村喜久雄

恒例の標記第二十三回大会が平成六年四月三日、村松晴嵐の砂丘特設会場で三百名の参加を得て開催された。

木村喜久雄錬士六段、浜野昇五段の立射礼演武のあと競技(四射)と余興射(板割り)に入った。結果は次のとおり。

小学生の部 優勝 鈴木亜沙土

二位 桃井 舞

三位 相沢 邦守

一般の部 優勝 金井 一夫

鹿島神宮弓道大会

事務局長 中村 展重

鹿行支部共催による鹿島神宮弓道大会が平成六年四月二十九日神宮弓道場で二百余名の参加を得て開催された。

### 茨城県教職員弓道連盟の活動状況

#### 理事長 白石直之

茨城県教職員弓道連盟は昭和四十五年六月、当時高体連弓道専門部長で笠間高校校長川野輪弘先生、高体連弓道専門部長長天辺子先生、副委員長猪野嘉久先生、柴田猛先生を発起人として「県学校弓道連盟」の名称で発足の準備がなされた。

その年の七月四日正式に「茨城県教職員弓道連盟」として発足した。会長は、当時太田一高校長の茅根正雄先生、副会長は高体連弓道専門部長川野輪弘先生、中体連弓道専門部長で稲田中学校長常井紀先生、取手一高芳賀巖先生、笠間高校天辺子先生、理事長猪野嘉久先生、会計柴田猛先生、小泉隆義先生という役員構成であった。会員は小学校関係十名、中学校関係十四名、高体連関係四十七名で合計七十一名であった。行事として同年八月三日、五日川

矢渡しは、射手引間弘錬士六段に大島康次五段、望月泰夫四段が介添した。各自四射の結果は次のとおり。

射詰賞 中山小百合 一位 矢口 裕一

射詰賞 栗芝 正夫 一位 金井 一夫

茨城県教職員弓道連盟の発足の経過と当時の活動状況である。

その後の講習会においては、中野範士・高橋範士を始め、安沢平次郎範士等のご指導を受け充実した講習会が行われた。中野先生は弓道の底辺拡大と青少年の健全育成のために弓道は大きな役割を持つと常々話されており、そのためには指導者の育成が大切と教職員弓道連盟に対し長期間にわたり精神的、経済的に多大の援助を下された。

現在本連盟には百三十七名の会員が登録しており、県内行事として年二回の大会と講習会を実施している。会員

数に対して行事への参加者が減少しているが、できるだけ多くの会員が参加できるように働きかけ充実した連盟にして行きたいと考えている。

そのほかの活動として、学校弓道指導者講習会及び関東教職員弓道指導者講習会の参加、関東教職員弓道大会、全日本教職員弓道選手権大会への選手派遣等を行っている。

全日本教職員弓道選手権大会成績

団体 男子

昭和五十年 第一位 猪野・小野崎・柴田

昭和五十四年 第三位 針替・宮田・北島

昭和六十二年 第二位 中嶋・栗原・荻原

平成四年 第二位 女子

個人 男子

昭和四十五年 一位 柴田 猛

昭和四十六年 一位 柴田 猛

昭和五十二年 五位 荒井 暁

昭和六十三年 十位 杉田幸雄

平成四年 六位 柴田 猛

個人 女子

昭和四十七年 四位 天 冨子

昭和四十八年 一位 天 冨子

平成四年 四位 斎藤千代子

平成五年 十位 大金喜代子

九位 高野順子

個人 男子

昭和四十五年 一位 柴田 猛

昭和四十六年 一位 柴田 猛

昭和五十二年 五位 荒井 暁

昭和六十三年 十位 杉田幸雄

平成四年 六位 柴田 猛

個人 女子

昭和四十七年 四位 天 冨子

昭和四十八年 一位 天 冨子

平成四年 四位 斎藤千代子

平成五年 十位 大金喜代子

九位 高野順子

個人 男子

昭和四十五年 一位 柴田 猛

昭和四十六年 一位 柴田 猛

昭和五十二年 五位 荒井 暁

昭和六十三年 十位 杉田幸雄

平成四年 六位 柴田 猛

個人 女子

昭和四十七年 四位 天 冨子

昭和四十八年 一位 天 冨子

平成四年 四位 斎藤千代子

平成五年 十位 大金喜代子

九位 高野順子

個人 男子

昭和四十五年 一位 柴田 猛

昭和四十六年 一位 柴田 猛

昭和五十二年 五位 荒井 暁

昭和六十三年 十位 杉田幸雄

平成四年 六位 柴田 猛

個人 女子

昭和四十七年 四位 天 冨子

昭和四十八年 一位 天 冨子

平成四年 四位 斎藤千代子

平成五年 十位 大金喜代子

九位 高野順子

個人 男子

昭和四十五年 一位 柴田 猛

昭和四十六年 一位 柴田 猛

昭和五十二年 五位 荒井 暁

昭和六十三年 十位 杉田幸雄

平成四年 六位 柴田 猛

個人 女子

昭和四十七年 四位 天 冨子

昭和四十八年 一位 天 冨子

平成四年 四位 斎藤千代子

平成五年 十位 大金喜代子

九位 高野順子

個人 男子

昭和四十五年 一位 柴田 猛

昭和四十六年 一位 柴田 猛

昭和五十二年 五位 荒井 暁

昭和六十三年 十位 杉田幸雄

平成四年 六位 柴田 猛

個人 女子

昭和四十七年 四位 天 冨子

昭和四十八年 一位 天 冨子

平成四年 四位 斎藤千代子

平成五年 十位 大金喜代子

九位 高野順子

個人 男子

昭和四十五年 一位 柴田 猛

昭和四十六年 一位 柴田 猛

昭和五十二年 五位 荒井 暁

昭和六十三年 十位 杉田幸雄

平成四年 六位 柴田 猛

個人 女子

昭和四十七年 四位 天 冨子

昭和四十八年 一位 天 冨子

平成四年 四位 斎藤千代子

平成五年 十位 大金喜代子

九位 高野順子

個人 男子

昭和四十五年 一位 柴田 猛

昭和四十六年 一位 柴田 猛

昭和五十二年 五位 荒井 暁

昭和六十三年 十位 杉田幸雄

平成四年 六位 柴田 猛

個人 女子

昭和四十七年 四位 天 冨子

昭和四十八年 一位 天 冨子

平成四年 四位 斎藤千代子

平成五年 十位 大金喜代子

九位 高野順子

団体優勝のみ

第三回 岩井・芳賀・小野崎

第七回 柴田・白石・芳賀

第八回 白石・小野崎・柴田

第十五回 白石・小野崎・荻原

第二十二回 白石・荻原・柴田

第二十五回 前野・栗原・中嶋

第二十六回 荻原・前野・栗原

第二十八回 荻原・前野・栗原

個人

第二回 岩井昇平

第三回 岩井昇平

第七回 芳賀 巖

第十二回 白石直之

第十四回 柴田 猛

第十六回 大久保秀隆

第十八回 宮田孝夫

第二十四回 柴田 猛

第二十五回 中嶋鉄郎

第三十回 栗原博明

第三十回 柴田 猛

第三十一回 女子二位 斎藤千代子

以上の教職員弓道連盟の発足当時を振り返りながら活動状況と、これまでの成績の主なものをまとめてみた。

現在の役員

会長 猪野嘉久(勝田高校長)

副会長 柴田 猛(日立商校長)

北島瑞男(土浦一高教頭)

萩原裕一(石岡一高)

本連盟への入会、問い合わせは役員または理事長までお願いします。



### 高体連

委員長 荻原 裕一  
(県立石岡第一高等学校)

委員長になって、四年目を迎えました。多くの方々のお力に支えられている感を強くしております。改めてお礼申し上げます。

大会全般を振り返ってみますと、まづ関東大会には、男子は筑波・境・清真学園・日立一、女子は石岡商・鉢田二・下館一・境が、山梨県の本大会に出場しました。女子で石岡商が団体のベスト8、技能優秀校になりました。男子で小沢(筑波)が個人三位に入賞しました。予選通過にあと一本というところに男子三チーム、女子一チームがいて悔しい思いをしたことと思います。この経験が次の大会のバネになることを期待します。

全国総体には、団体の部に男子は高萩、女子は水戸二が、栃木県の本大会に出場しました。個人の部に男子は藤原(清真) 森(水城)、女子は米川(鉢田) 池田(土浦三)が出場しました。入賞はできませんでしたが、全国大会で勝つためには、技術面だけでなく精神面、体力面での飛躍が必要なることを実感しました。

団体関東地区予選には、男子は相澤(土浦三) 森(水城) 市村(下館一)、女子は飯島(石岡商) 中山(同) 神野(石岡二)の茨城選抜で臨みました。

男子は総合四位、女子は八位で予選突破はなりませんでしたが、関東個人選手権大会では、男女各十名が明治神宮の本大会に出場しました。男子は服部(境)が二位に、女子は飯島(石岡商)が二位に入賞しました。全国大会と同じ方式で、予選通過が難しく、確実性のある選手選考のために、県予選のやり方も変更しました。成果はあったと思います。

全国高校選抜大会には、男子は豊秋女子は石岡商が、明治神宮の本大会に出場しました。入賞はできませんでしたが、何らかの収穫を持ち帰ったことでしょうか。

以上県外大会を中心に述べてきましたが、入賞できなかったものも一本の所までできていることを感じさせられた年でした。県内大会を振り返ってみますと、男子は、冬季・総体・新人を制した高萩、冬季・春季・総体・新人に入賞した清真、女子は春季・新人を制した石岡商、春季・総体・新人に入賞した鉢田二の活躍が目立ちました。各高校の力は拮抗しており、いつでも上位にくいこむ所にいるものと思われれます。

今年には関東大会が茨城県で開催されます。各高校の顧問の先生方ももちろん、県弓道連盟の先生方のご指導・鞭撻を願ってごあいさついたします。

### 中体連

委員長 木村 明弘  
(東海村立東海南中学校)

県内に三二校の中学校があるが弓道部を持つ学校は十七校と少ない。

(中央地区十校 水戸二中、千波中、茨城中、勝田一中、大島中、内原中、明光中、稲田中、東海中、東海南中)(県南地区六校 土浦一中、阿見中、竹来中、朝日中、愛宕中、城西中)(県東地区一校 清真学園中)

この十七校においても施設設備に恵まれない学校が多く部員数が数十人に對し、射場が狭小的が三つしか掛けられないといった所もある。顧問教師においても高校や大学時代に弓道部に席を置いたことのある人は極めて少なく、射技・射法について十分指導ができる体制が整っていない。このように弓道に関する周りの状況は、決して樂觀で見る状態ではない。顧問教師は、生徒の実態、施設設備の状況、指導者としての経験・指導力などを考慮した上で、効果的な練習内容と方法を独自に作り上げて行かなければならない現状である。地区によっては、県弓連の方々の指導をいただいたり、それに関する大会等に参加して技術の向上を図っている学校もある。これからは、弓道発展のためにも学校独自の活動という狭い意味での活動を行っていく必要がある。

さて中体連弓道部の年間の行事を紹介しよう。年間を通じて一番大きな大会は七月に行われる県民総合体育大会である。この大会は、三年生が中心になり中学校の部活動における最後の晴舞台となる。三年生にとっては、締めくくりの大事な大会と言える。この七月の県大会までに六月から、郡市大会と県内を五ブロックに分けた地区大会とがある。秋の十一月には、県新人体育大会がある。これは、一・二年生の大会である。また、十一月には中野杯優勝旗争奪弓道大会がある。この大会は団体戦のみであり、予選を勝ち抜いたチームによる決勝トーナメント方式で優勝チームが決定される。また三年生も出場できるとあって毎年ハイレベルの白熱した試合が展開されている。今年七月三日に県武道館において関東地域中学生親善弓道大会が開催されることになった。今年第五回を数え茨城県が主催することになり、県弓連の方々のご支援をいただくことになった。各中学校としても、地元開催を祝って上位入賞を目指し頑張ってもらいたい。中体連専門部としても練習試合を計画するなど万全の体制で臨みたいと思う。

最後にこの場をお借りして今まで中体連弓道部に対しての皆様御協力に感謝の意を述べるとともに、今後とも中体連弓道部への御指導御助言をよろしくお願いいたします。

### 専門部だより

#### 選手強化部

部長 久保田 清

私が強化部を柴田先生より引き継ぎ担当することになって三年がたちました。小泉、市毛両先生に副部長を引き受けていただき、真に茨城弓人の、技術向上と競技力、集中力の養成を目標に、強化練習、団体強化等の事業を行いました。前部長よりの強化が実を結び、二年連続で成年女子二部が関東ブロック一位通過を果たすことができました。

団体選手は、強化、予選会があっても、選手になる人は決まっているんだと言う声が、一部より耳に入ってきた。そこで、団体選手の選考方法をお知らせ致します。前年の茨城県弓道連盟公式行事の試合「春季、遠的、県民総体、中野杯」の四大会中、成績上位三大会の、的中率より、男子十二名、女子十五名以内を団体候補選手としています。人数は上位者より、一人ずつ聞いて行くこともできません。「仕事、家庭等の都合で団体に参加できない人もい」ので、計算して往復ハガキを多めにします。そのため人数が多くなる場合があります。候補選手が決まり、選考会が始まります。春季大会

遠の大会、選考会、最終選考会と六〜七回の選考を重ねます。選考委員により、選手が決定されます。

決して、最初から選手が決まっているわけではありません。我こそは、という人は花の国体選手にチャレンジしてみませんか。今年の上位に残る的中率は、男子で六割五分、女子は四割以上です。これをクリアすれば、来年の国体選手候補に選出されます。まずは、全試合に出場し、日頃の練習の成果を発揮することです。やる気を持つことには勝てない」と、チャレンジする前から、負け犬になっている人が、「選手はもう、始めから決まっているんだ」というような噂をしているのではないかと私は思います。

長年国体に執念をもち、出場して行く人も数多くいます。出場する人は、すんなり出場を果たした人はいません。苦勞と修業と涙を重ね、選手になります。これを克服し国体に出場してこそ、感動を味わうことができるのです。

国体が終了する十月が過ぎますと国体候補選手になりうる人も含め、今年度の試合成績上位者を対象に、強化練習を月に一度の割で行います。的中主義でなく、各人の技術、集中力を中心に、レベルアップを図る強化練習です。強化部員一同、力を一つに合わせ、茨城県の弓道界の向上に尽くして行きたいと思えます。

競技部

部長 曲山 伊之吉

審査部

退任にあたり 部長 高橋 平吉

新緑の候となりました。会員の皆様には御社健にて斯道修練にお励みのこととお慶び申し上げます。

平成五年度は前回十七号で申し上げたとおり、

一 競技運営担当担当者全員プログラム記載、(後日の記念及び無理の無い立順の編成)

二 召集係の行動範囲、参加全員で交互の矢取り、(自己管理、競技力の向上)

三 看的の標示方法で「あたり」「はずれ」がはっきりしない場合、「三角黄色旗を出し、電光標示をしない」(看的係の負担の軽減、確認標示のため正確な標示)

大会参加者の実績のとおり二百五十人を数える実状です。今後競技の間合い等各自の修練を積み重ね、より円滑な競技運営に御協力をお願いいたします。

尚、競技大会について、よりよい運営のため御意見御希望などお聞かせ頂ければ幸いです。

平成五年度のA審査四回、B審査四回、連合審査一回の計九回の審査会が無事終了できましたことは審査員ならびに会場役員皆様のご支授とご協力の賜と心から感謝申し上げます。五年度は日弓連より審査料・登録料の増額改正がなされ、受審者の大幅減少が心配されたのですが、審査の回を追う毎にその数も回復し、最終的には別表の通り、一九三二名で前年度比一〇%減のほぼ横ばいでした。従って収支決算報告にありますが審査料の値上がり分が平成六年度への繰越金の増額となり、年間行事運営費の充実に還元されることになりました。このことは、審査料の値上げにも増して会員の皆さんの弓道意欲の向上を物語るものと深く安堵した次第です。

今後尚一層の精進を積み、昇段審査に挑戦されることを望みます。

B 審査の地区当番制

四年度に審査部長の交替があり、審査部員を急遽、鹿行地区を中心に編成した。審査会も、受審者数が二三〇名を越えると、会場は二射場となり、役員数もそれに応じ召集四名、進行四名、の前四名、記録集計六名、合計十八名の

の最低人員を確保し、審査日十日前には夫々に委嘱状を送付し出席を要請します。三年度の審査会場役員の出席は、のべ一三〇人にもなりました。役員によっては遠方の処、年五回以上の出席をお願いしご苦勞をおかけしました。従って会場役員のローテーションについて、検討の必要性を痛感しました。出来れば地区別に順番に、会場役員を担当すれば、夫々の負担も軽くなり、率化を計るために次のお願いをつけ加地区内での調整も容易かと思えます。

六年度の行事にはこの意向が反映されることを望みます。

審査請求書について

審査請求書の正しい記入についてはすでに弓道いばらき十七号に記載しましたが、最近では記入不備等も少なくなってきましたが、更に審査事務の効率化を計るために次のお願いをつけ加えさせていただきます。

受審者数推移 (平成元年～5年)

級	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平均受審者数
級	683	675	647	631	545	636
初段	568	597	700	683	624	634
式段	458	389	484	517	419	453
参段	129	110	140	114	156	130
四段	79	104	114	110	84	98
五段	88	138	107	110	104	109
合計	2005	2013	2192	2165	1932	2061



弓歴書の例

氏名	生年月日			満(才)
住所	〒( )		TEL	
学歴				
職歴				
級・段位	認許年月日	段位	認許年月日	
級	年月日	六段	年月日	
初段	年月日	七段	年月日	
貳段	年月日	八段	年月日	
参段	年月日	称号	授与年月日	
四段	年月日			
五段	年月日			
弓道経歴	年	月	日	講習会・講師入賞記録

(一) 締切り期日の厳守  
 審査規定には締切り期日を厳守すること、期日後の申込みや、書類記入不備の場合は受理しないとなっております。審査請求書は、支部長が(学校にあつては弓道部顧問の先生が)それを目を通した上認証印を押し、一括して締切り期日までに審査事務局に送付して頂きたい。余裕をもって送って頂ければ、仮に書類上の不備があつても連絡がとれ、期限内に修正が可能です。締切り間際に届いたものは、残念ながら受理出来ず返却した例もあります。

(二) 弓歴書を準備する  
 審査請求書を早めに正しく書くために、弓歴書を作っておくと便利です。別紙に見本を添付しておきましたので参考にして下さい。

最後になりましたが、この度一身上の都合で橋本真也部長と交替することになりました。今後とも審査部に対し、ご支援ご協力をよろしく願っています。いろいろ有難うございました。

できるだけ早く送って頂くようお願い致します。

平成5年度審査会における学科問題

	5月9日	5月30日	11月3日	11月21日
A 審査	(査定、級) 1. あなたが、弓道を始めた動機を述べよ 2. 「足踏み」の重要性について述べよ (初段) 1. 弓道のどんな所が好きか述べよ 2. 射法八節を列記して、簡単に説明せよ	(査定、級) 1. 弓道人として弓道場でのマナーを列記せよ 2. 「足踏み」の重要性について述べよ (初段) 1. 弓道を始めて良かった点を書け 2. 射法八節を列記して、簡単に説明せよ	(査定、級) 1. 弓道が他のスポーツと異なる点について述べよ 2. 「足踏み」の重要性について述べよ (初段) 1. 弓道人として弓道場でのマナーを列記せよ 2. 三重十文字について述べよ	(査定、級) 1. あなたが、弓道を始めた動機を述べよ 2. 「足踏み」について述べよ (初段) 1. 弓道のどんな所が好きか述べよ 2. 弓道八節を列記して説明せよ
	B 審査	6月27日 (査定、初段) 1. あなたが、弓道を始めた動機を述べよ 2. 「足踏み」の重要性について述べよ (武段) 1. 審査を受ける目的について述べよ 2-1. 弦調への目的と方法について述べよ 2-2. 正しい射形はいかに大切かを述べよ 2-3. 弓の練習における量と質の問題について述べよ (参段) 1. 今までの弓道修練で、あなたの得たものは何か述べよ 2. 会の構成について述べよ (四段) 1. 弓道と日常生活との関連性について述べよ 2. 基本の動作について記せ	8月8日 (査定、初段) 1. 弓道が他のスポーツと異なる点について述べよ 2. 三重十文字について述べよ (武段) 1. 弓道の道を選んで良かった点について述べよ 2. 弓の練習における量と質の問題について述べよ (参段) 1. 巻葉の効用について述べよ 2. 会の構成について述べよ (四段) 1. 弓道と日常生活との関連性について述べよ 2. 基本の動作について記せ	11月28日 (査定、初段) 1. 弓道の良い点について述べよ 2. 弓道八節を列記せよ (武段) 1. 何をめざして弓道の練習をしているのか述べよ 2-1. 残身について述べよ 2-2. 弓構えについて大切な点を述べよ 2-3. 開き足の仕方について記せ 2-4. 胴造りについて述べよ (参段) 1. 巻葉の効用について述べよ 2-1. 引き分けについて述べよ 2-2. 三重十文字について述べよ (四段) 1. “内志正しく、外体直くして、然る後弓矢をとること審固なり”の礼記射義の一節についてあなたの考えを述べなさい。 2. 基本体について記せ

## 平成5年度収支決算書

## 平成6年度予算書

## 【収入の部】

項目	予算額	決算額
前年度繰越金	2,514,498	2,514,498
会費	4,329,000	4,473,000
審査収入	4,547,000	4,513,386
助成金	1,288,000	2,022,170
雑収入	100,000	161,015
計	12,778,498	13,684,069

## 【収入の部】

項目	予算額	平成5年度
前年度繰越金	5,504,044	2,514,498
会費	4,523,000	4,329,000
審査収入	3,970,000	4,547,000
助成金	1,508,000	1,288,000
雑収入	100,000	100,000
計	15,605,044	12,778,498

## 【支出の部】

項目	予算額	決算額
会議費	721,000	700,832
大会運営費	300,000	289,450
褒賞費	400,000	434,061
諸謝金	1,347,000	1,350,116
消耗品費	240,000	185,501
印刷費	686,000	453,774
通信費	499,000	498,305
分担金	350,000	333,000
大会参加費	875,000	553,000
選手強化費	1,546,000	2,016,757
助成金	653,000	649,000
雑費	704,000	716,229
予備費	4,457,498	0
計	12,778,498	8,180,025

## 【支出の部】

項目	予算額	平成5年度
会議費	940,000	721,000
大会運営費	626,000	300,000
褒賞費	445,000	400,000
諸謝金	1,834,000	1,347,000
消耗品費	580,000	240,000
印刷費	996,000	686,000
通信費	608,000	499,000
分担金	388,000	350,000
大会参加費	1,095,000	875,000
選手強化費	1,548,000	1,546,000
助成金	779,000	653,000
雑費	1,437,000	704,000
予備費	4,329,044	4,457,498
計	15,605,044	12,778,498

収入 13,684,069 - 支出 8,180,025 = 5,504,044 (翌年度へ繰越)

## 平成5年度(第17回)中野杯収支決算

## 平成6年度(第18回)中野杯収支予算

## 【収入の部】

項目	予算額	決算額
繰越金	101,986	101,986
預金利息	300,000	309,487
雑収入	50,000	40,000
計	451,986	451,473

## 【収入の部】

項目	予算額	平成5年度
繰越金	3,814	101,986
預金利息	240,000	300,000
雑収入	260,000	50,000
計	503,814	451,986

## 【支出の部】

項目	予算額	決算額
会議費	10,000	0
大会運営費	36,000	40,900
褒賞費	360,000	363,741
印刷費	30,000	41,451
事務費	5,000	1,567
予備費	10,986	0
計	451,986	447,659

## 【支出の部】

項目	予算額	平成5年度
会議費	10,000	10,000
大会運営費	90,000	36,000
褒賞費	364,000	360,000
印刷費	30,000	30,000
事務費	5,000	5,000
予備費	4,814	10,986
計	503,814	451,986

収入 451,473 - 支出 447,659 = 3,814...残金は次年度へ繰越  
中野杯基金 7,020,000 は定期預金



審査部長

平成5年度は、A審査4回、B審査4回、連合審査1回の合計9回の審査を実施いたしました。審査員各位及び御協力いただいた会員各位にお礼申し上げます。結果は下表の通りです。

平成5年度審査結果

Table with 4 columns: 段・級, 受審者数, 合格者数, 合格率(%). Rows include 級, 初段, 二段, 三段, 四段, 五段, 計.

競技部長

平成5年度、8回の大会を実施いたしました。地区、支部会員各位の御支援と御協力に感謝申し上げます。平成6年もなお一層の御協力をいただけますようお願いいたします。

平成6年度大会成績

(第17号以降分)

Table with 7 columns: 月日, 大会名, 種別, 第1位, 第2位, 第3位, 参加人員. Rows include 9/6 中野杯大会 and 10/25 支部對抗大会.

新刊紹介

弓道範士 中野慶吉

筆者 猪野 嘉久

範士十段故中野慶吉先生は、明治・大正・昭和と激動の時代に、実業界・政界・教育界・弓道界等では果敢に活躍したことは、本県弓人のみならず、弓道人全てが認めるところです。本書の主な内容は、

序文

中野慶吉先生を憶う 武田 豊

中野慶吉先生をを偲んで 鴨川乃武幸

中野先生と私 関 宗長

中野慶吉の生い立ち

中野慶吉の弓道修業  
中野慶吉の足跡  
軍人としての中野慶吉

中野慶吉の人生観・弓道理念の形成  
中野慶吉先生と折りにふれて  
「弓道理念と射法八節」  
中野慶吉年譜

筆者紹介  
勝田高等学校長  
関東教職員弓道連盟会長  
茨城県弓道連盟理事

◆ 本書の問い合わせ先 ◆  
中野慶吉至誠館同門会事務局  
(〒)三二一〇一  
茨城県那珂郡那珂町後台二二六八  
(電話)〇二九二一九八一六・三〇

県外競技大会

◇ 一般 ◇

第四十二回住吉大社奉納全国遠の大会

大学の部団体 二位 筑波大学

北村惣吾 野澤 力、青木良憲

大学の部個人 優勝 野澤 力

二位 松下文男

四位 牧 義孝

第三十回東日本女子弓道大会

四段以上の部 優勝 村越紀久

第三十一回関東教職員選手権大会

男子個人の部 三位 柴田 猛

五位 栗原博明

女子個人の部 二位 斉藤千代子

三位 佐川裕子

第三十四回関東地域弓道選抜選手権大会

有段者の部 五位 村山久行

称号者の部 五位 久保田清

技能賞 久保田清

第四十四回全日本弓道選手権大会

三位 張替謙一

第四十八回国民体育大会

青年女子の部 近的八位

石井幸子、尾科忠子、大内美子

第二十五回関東学生選手権大会

団体男子 二位 筑波大学

団体系女子 二位 図書館情報大学

個人男子 優勝 北村惣吾

個人女子 四位 中川裕恵

明治神宮奉納全国弓道大会

称号者の部 四位 張替謙一

第四十二回青年大会弓道競技

団体 三位 下館市

重森直美、金子陽一、浅野 悟

個人 三位 金子陽一

第四十三回三十三間堂の全国大会

成人女子の部 優勝 青山裕子

◇ 高体連 ◇

第三十七回関東高校大会

男子個人の部 三位

小沢 誠(筑波高校)

団体技能優秀 石岡商業高校

第十二回関東高校選抜個人選手権大会

男子個人二位 服部 良(境高校)

女子個人二位 飯島和美(石岡商業)

◇ 中体連 ◇

第四回関東地域中学生親善大会

女子団体五位 安達久恵(稲田中学)

第二十回全国中学生通信大会

男子個人二位 清水洋平(明光中学)

二位 飯岡宏了(明光中学)

三位 飯野知行(朝日中学)

女子個人三位 田中綾子(東海中学)

講習会・研修会

県外

女子東部地区講習会 (仙台) 6/25~27

関東地区北部中堅層指導者講習会 (前橋) 7/16~18

全関東地域指導者講習会 (石和) H6/2/26~27

県内

三段以下講習会 (水戸) 5/23

五段以上講習会 (水戸) 7/5

指導者講習会 (水戸) 7/25

伝達講習会 (水戸) 8/1

五段以上講習会 (水戸) 10/31

地区

水戸地区講習会 (勝田) 5/9

鹿行地区講習会 (麻生) 8/22

石岡地区講習会 (石岡) 8/23

友部支部講習会 (友部) 11/23

鹿行地区講習会 (神栖) 12/26

石岡地区講習会(石岡) H6/2/27

高体連

審判講習会 (水戸) 7/21

国体監督育成実技講習会兼選手強化合同研修会

☆新役員決まる

四月四日の定例総会において次ぎのとおり役員(任期二年)が決定致しました。

会長 関 宗長  
副会長 矢吹 三郎  
副会長 山口 省吾  
副会長 木村喜久男  
副会長 柴田 猛  
副会長 米家 達朗  
理事長 関根 村夫  
副理事長 宮崎 康実  
理事 竹下 孝雄  
理事 天 牙子

理事	久保田 清
理事	赤津 徳
理事	明間 勲
理事	市毛 道子
理事	橋本 真也
理事	曲山伊之吉
理事	介川 達
理事	関口宇一郎
理事	松山 芳雄
理事	川又 正昭
理事	高橋 政行(日立地区)
理事	猪野 嘉久(県北地区)
理事	道行 翼(水戸地区)
理事	須田 勝(石岡地区)
理事	浅野 好次(鹿行地区)
理事	澤田 恒彌(土浦地区)
理事	張替 謙一(県西地区)
理事	浦 憲正(県南地区)
理事	小松崎陽子(大学)
理事	荻原 裕一(高体連)
理事	木村 明弘(中体連)
理事	芹澤 雄二
理事	五来 清

中央審査の第一次審査について  
中央審査の第一次審査(六段を含む)の入場について次のとおり実施されることになりました。

(1)前立の五番の甲矢の弦音で入場する。  
(2)本座において男子は「肌ぬぎ」女子は「襷さばき」を行う。

実施期日平成六年七月一日より

弓道余話

文助の弓矢地藏

むかし、笠間藩に、文助という男がいました。

文助は、真面目に励んでいるのですが、弓の腕前はさっぱり上がりません。ある日、先生は、文助のあまりの不器用さにいらだち、「玄勝院の地藏でも射ってこい。」としっかりつけました。その言葉を真に受けた文助は、玄勝院に向かいました。でも、お地藏さまに向けて、矢を放つことなどできず、ためらっていました。しばらくして、お地藏さまに顔を向けると、文助の目には、お地藏さまが優しくほほえんで見えたのです。文助は、「どうかお許しください。」と心の中でわび、お地藏さまがけて矢を放ちました。すると、矢は勢よくお地藏さまに当たり、火花が、お地藏さまの胸もとが欠け、その破片が足元に落ちました。文助は、自分の弓の威力に驚くと同時に、初めて自信を持つことができ、お地藏さまに「いいいにお礼を言いました。それからというもの、文助の弓の腕前はぐんと上がり、先生を超えるまでになりました。このお地藏さまは、その後、文助の弓矢地藏と呼ばれるようになったということです。

※玄勝院は日動美術館近く

編集後記

スペインのバルセロナには、一世紀を経てなお未完成の聖家族教会堂があるという。一世紀前にガウディが設計し、彼が死んだ後も、まだまだ時代の技術を取り入れながら建築中であるということをお聞きください。

話は違いますが、自分の弓道も百年とまではいなくても五十年ぐらいの長さで見ても、それをさらに幾つかの期間に分けて、その期間に合った仮の目標を目標として精進すれば、素晴らしい成果が得られるのではないかと思います。十八号は、「目標」を見つけないこと、示唆に富むものが多かった。

学校教育に武道が取り入れられた。こまめには関係者の努力は並々ならぬものがあつたと思うが、今度は、正課で弓道を教えるために、人材や施設が必要になってくる。県内でも中学校高校に弓道場が設置されつつあるが、先生方のご努力に感謝を申し上げます。五月号の道のおとがきに弓道人口の拡大があつたが、施設と初心者指導ではジレンマを感じている方が多いのではないのでしょうか。次号では弓道教室に取組んでみたいと思います。

編集委員

関根 村夫 宮崎 康実  
介川 達 小松崎紀男  
松尾 牧則 坂本 宣子  
関 正美